

# 令和2年度事業報告

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

## 1 事業概要

昨年度は、人と家畜の「感染症」が発生し、畜産業界にとって様々な分野で大きな影響が出た1年となりました。

4月には、新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)対策として緊急事態宣言が発出され経済活動が停滞すると、畜産業界にも大きな影響が出ました。特に営業自粛による飲食業向けの牛肉に影響が大きく、牛肉価格は消費停滞により暴落しました。

また、学校の休止により学校給食用の牛乳消費がなくなり、行き場のなくなった牛乳が廃棄の危機を迎えました。

このため、政府や関係団体では、肉牛生産者への奨励金の交付、和牛肉の学校給食への供給や牛肉の消費拡大への支援、医療施設等への牛乳の無償提供など様々な対策を打ち出しました。

当協会においても、国等の対策を事業主体として実施する他、協会独自で県産牛肉の消費拡大キャンペーンの実施や病院への牛乳提供の支援などコロナ対策に取り組んできました。

一方で、COVID-19の影響が比較的少なかった養豚業界では、CSF(豚熱)の発生が関東地域まで拡大したことから、昨年2月から県内の豚全頭にワクチンの接種が始まりました。

CSFは、アジア地域で感染拡大したASF(アフリカ豚熱)とともに養豚経営にとって大きな脅威となっており、農場での飼養衛生管理基準が厳格化される中、農場の衛生対策費の増大が大きな課題となっています。

当協会では、「ASF侵入防止緊急支援事業」により、養豚農場におけるイノシシ等の防護柵の整備に取り組む他、協会独自に県内14団体に対し、衛生資材への助成を行い農場の衛生管理を強化しました。

なお、「東京食肉市場まつり」への参加や「畜産フェア」など、販売促進活動の殆どのイベントは、COVID-19の影響から中止としましたが、WEB上で畜産物のプレゼントキャンペーンを実施するなど代替しPR活動を展開しました。

この他、一昨年の台風15号等の被害が未だ十分な復旧に至っていないことから、畜舎修復や発電機の整備の支援などにも取り組んできました。

昨年末に、県内で高病原性鳥インフルエンザが発生し、その後1月から急速に感染拡大しました。

その防疫措置には、自衛隊を始め国や多くの関係団体の協力があり、協会でも職員を派遣しましたが、最終的には県の飼養羽数の4割近くが殺処分される事態となりました。

このような中、通常事業や施策の要請活動、10団体の事務局事務などを適切に執行してまいりました。

## 2 会員及び役職員の構成（令和3年3月31日現在）

### （1）会員

区分	計
県域畜産団体	20
市町村	51
自衛防疫組織	47
農協・会社等	27
生産者組合等	12
賛助会員	5
合計	162

### （2）役員

（単位：名）

会長	副会長	専務理事	理事	監事	計
1	5	1	9	4	20

### （3）職員

（職種別）

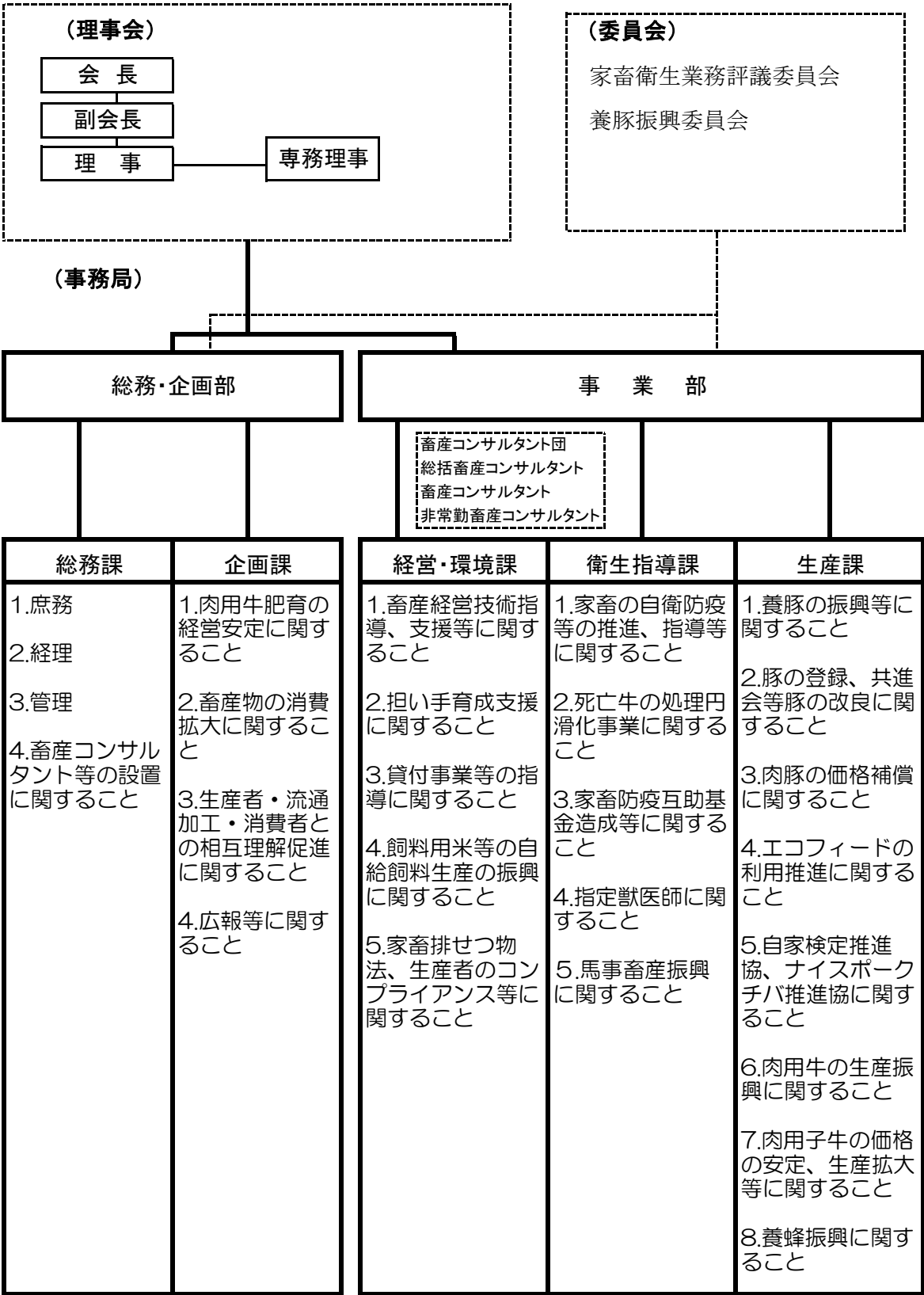
（単位：名）

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	臨時職員	合計
人数	5	4	6	15

（所属別）

（単位：名）

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専 務 理 事	1	—	1
総 務 ・ 企 画 部	3	5	8
事 業 部	2	4	6
合計	6	9	15



### 3 会議の開催

#### (1) 監事会

期日	場所	内容
令和2年6月3日	K & T 千葉ビル	令和元年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について

#### (2) 理事会

期日	場所	内容
令和2年6月10日	書面決議	1) 令和元年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 千葉県畜産協会就業規則の改正について 3) 千葉県畜産協会育児・介護休業等に関する規則の制定について 4) 令和2年度会費の額及び徴収方法について 5) 役員の改選について 6) 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務方法書の一部改正について 7) 家畜防疫互助事業業務方法書の一部改正について 8) 役員の報酬額について 9) 令和2年度定時総会について 報告事項 ア 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について イ 令和2年度千葉県畜産協会単独事業（追加事業）
令和2年6月29日	ホテルラサ`菜の花	1) 会長、副会長及び専務理事の互選について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
令和3年3月15日	書面決議	1) 令和3年度事業計画及び収支予算について 2) 令和3年度借入金の最高限度額及び借入先の決定について 3) 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務方法書の一部改正について 報告事項 ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について ・会員の退会について

令和3年3月23日	ホテルラザ`菜の花	1) 令和2年度千葉県畜産協会単独事業について 千葉県肉用牛肥育経営安定対策補完事業
-----------	-----------	---

### (3) 総会

期日	場所	内容
令和2年6月29日	ホテルラザ`菜の花	<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度事業報告について</li> <li>2 令和2年度事業計画並びに収支予算について</li> <li>3 令和2年度千葉県畜産協会単独事業（追加事業） <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生産農場衛生対策緊急強化事業</li> <li>② ちばの畜産物緊急販売強化事業（コロナ影響対策）</li> </ol> </li> </ol> <p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和元年度貸借対照表、損益計算書及び財産目録について</li> <li>2) 令和2年度会費の額及び徴収方法について</li> <li>3) 役員の改選について</li> <li>4) 役員の報酬額について</li> </ol>

### (4) 家畜衛生業務評議委員会

令和2年6月12日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和元年度家畜衛生業務関係事業の実績について</li> <li>2) 令和2年度家畜衛生業務関係事業の計画について</li> <li>3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮問について</li> </ol>
令和3年3月5日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和3年度予防接種負担金額の決定について</li> </ol>

### (5) 養豚振興委員会

開催無し

### (6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

## I 畜産経営を支援する事業

### 1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）公益

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産経営の支援体制の強化を図る事業、②地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業、③馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

### 2 畜産コンサルタント等設置事業（県）公益

畜産経営の経営改善を図るため、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

### 3 会報誌編集発行事業（協会単独）その他

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第48～50号・1,500部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

### 4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）公益

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

#### (1)畜産コンサルタント団の設置

区 分	総括畜産 コンサルタント	畜 産 コンサルタント	非常勤畜産 コンサルタント	フォローアップ 指導員
人数（名）	3	4	29	11

#### (2)畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

①総合委員会：令和2年7月16日

②専門委員会：令和2年7月16日

#### (3)畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パーソナルコンピュータをリースした。

#### (4)畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

##### ①個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等を下記のとおり実施した。

項 目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指 導	フォローアップ 指 導	計
戸数(戸)	1 4 (酪農)			1 0 (酪農)	2 4
件数(件)	1 4	1 4	1 4	3 0	7 2

(5)畜産経営関係情報のデータベースの整備

畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

## 5 貸付事業指導等事業（（公財）畜産近代化リース協会）その他

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、17基について確認調査並びに指導を実施した。

### 1. 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者数	No.	再貸付団体名	生産者数
1	県みるく農協中央支所	3	4	全農千葉県本部	1
2	県みるく農協南部支所	8			
3	千葉酪農協	2	計		14

### 2. 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調 査 数
1	自給飼料生産利用機械施設	9
2	生乳生産合理化施設	6
3	畜舎環境改善機械施設	2
4	生乳処理流通施設	0
計		17

## 6 畜産特別資金等推進指導事業（（公社）中央畜産会）公益

大家畜改善緊急支援資金、大家畜経営維持緊急支援資金、大家畜特別支援資金養豚改善緊急支援資金及び養豚経営維持緊急支援資金借入者の経営改善に資するため、年3回の県支援協議会（本協会事務局）を開催するとともに、現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

維持緊急支援2経営（養豚2）

改善緊急支援4経営（酪農1、肉用牛1、養豚2）

特別支援資金1経営（酪農1）

## 7 肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業）

（（独）農畜産業振興機構）公益

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、地域の中核となる担い手育成のための繁殖雌牛増頭の奨励金交付、肉用牛ヘルパー活動（削蹄、出荷、除角など）を推進した。

（１）中核的担い手育成増頭推進

奨励金交付対象戸数：４戸 対象頭数：１０頭

増頭奨励金 ９２０，０００円（８万円：４頭、１０万円：６頭）

（２）肉用牛ヘルパー活動推進

２カ所（安房・香取）各肉用牛ヘルパー利用組合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用の推進を図った。

**８ 畜産経営災害総合対策緊急支援事業（肉用牛経営災害緊急支援対策事業）**

**（（独）農畜産業振興機構）公益 【新規】**

災害等による停電時における畜産経営体の経営継続のため、家畜の生命維持に要する機械の稼働のための非常用電源の整備等に要する経費について補助し、もって国産牛肉の安定供給を図った。

非常用電源の整備

対象戸数：１３戸、整備した非常用電源数：１６基

**９ エコフィード・ＴＭＲ普及定着推進事業（県）公益**

畜産業において飼料自給率の向上は大きな課題であることから、千葉県ではエコフィード及びＴＭＲの利用推進に取組み、飼料自給力の強化を図ってきた。近年、エコフィードを新規に利用する農家が増えているほか、粕類等を活用したＴＭＲの生産・利用も進んでいることから、これら国内由来飼料の普及に加え、利用の定着を図ることが求められている。

このため、エコフィード及びＴＭＲの利用に精通した人材を千葉県エコフィードコンサルタントとして設置し、指導・調査及び研修会等を通じ、畜産農家におけるエコフィード・ＴＭＲの利用定着を図った。

**１０ 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業に係る事業推進業務 公益**

畜産クラスター協議会に参画する中心的経営体が行う畜産クラスター計画実現のための収益力強化等の取組みについて、本県の窓口として業務を行った。

（１）機械導入事業（（公社）中央畜産会）

地域における中心的経営体の収益性の向上等に必要な機械装置の導入を支援する本事業の千葉県の窓口として、事業要望（２０２件）、参加申請（７０件）のとりまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

また、機械導入状況調査に係る現地調査（１０件）等も実施した。

（２）生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）（（一社）全国肉用牛振興基金協会）



輸出の拡大に向けて和牛の増産を推進するため、優良な繁殖雌牛を増頭し、輸出に適した和牛肉の増産を図る取組みに必要な経費を支援する事業の事業要望、参加申請の取りまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

事業参加戸数：19戸

奨励金交付対象牛：29頭（24.6万円：16頭、17.5万円：13頭）

**1 1 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（楽酪事業）及び酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（楽酪GO事業）（（公社）中央畜産会）** **公益**

酪農家における労働負担軽減・省力化等の取組みに必要な機械装置の導入（楽酪事業）及び導入と一体的な施設の整備（楽酪GO事業）を支援する本事業の本県窓口として、事業の普及、事業推進指導業務を行い、実施計画申請（機械装置数：4件）の取りまとめ等を行った。

**1 2 肉豚経営安定交付金制度連絡調整等業務（（独）農畜産業振興機構）** **公益**

肉豚経営安定交付金制度参加の養豚事業者、養豚関係者に対し、事業の内容・適切な事務処理について周知し、円滑な事業を実施した。

対象：登録生産者 171名、関係者21名、計192名

**1 3 養豚経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）** **公益**

養豚経営の安定化を図るためには、更なる経営コスト削減及び生産性や能力評価に必要な一代雑種雌豚を導入し、養豚経営の体質強化を図った

4団体 養豚生産者8名、純粋種豚2頭、一代雑種雌豚155頭導入

**1 4 畜産経営災害総合対策緊急支援事業（養豚経営災害緊急支援対策事業）（（独）農畜産業振興機構）** **公益**

災害等による停電時における家畜の生命維持に要する機械の稼働のための非常用電源を整備することにより、養豚経営の体質強化を図った。

非常用電源の整備

対象戸数：26戸、整備した非常用電源数：43基

**1 5 ちばの畜産物緊急販売強化事業（コロナ影響対策）**

**（協会単独）公益 【新規】**

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、生乳の消費停滞や牛肉価格の暴落を招いたため、生乳等の廃棄回避対策への支援や消費回復のための「県産畜産物応援キャンペーン」を実施した。

（1）県内の焼肉店、レストランなど26店舗で実施（7月～9月）

（2）県内病院施設（14施設）への牛乳パック提供（輸送費補助）

## Ⅱ 家畜衛生向上及び環境に関する事業

### 1 家畜生産農場衛生対策事業（国庫）公益

畜産の健全な発展に資するため、牛白血病の清浄化対策、牛ウイルス性下痢症及び予防接種によるアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上と家畜の損耗防止を図った。

#### （１）ＥＢＬ感染拡大防止対策

ＥＢＬの感染拡大防止を推進するため、抗体検査等に対して助成した。

- ・抗体検査等 779頭 10農場
- ・吸血昆虫の忌避・駆除対策 1件(防虫ネット導入補助)
- ・研修会の開催（Web会議）1回

#### （２）牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化を推進するため、発生農場等の重点的な検査、本病の持続感染牛のとう汰、ワクチン接種等に助成した。

- ・検査 7,788頭 24農場
- ・ワクチン接種 133頭 1農場
- ・PI牛のとう汰推進 13頭（乳牛11頭、肉牛2頭） 5農場

#### （３）疾病流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

アカバネ病（単味）	異常産（３種混合）	異常産（４種混合）
3,204頭	7,266頭	3,020頭

### 2 家畜防疫互助基金支援事業（（独）農畜産業振興機構）公益

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病（口蹄疫、牛肺疫、牛疫、豚熱、アフリカ豚熱の５疾病）の発生に備え、牛及び豚飼養農家による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金（（独）農畜産業振興機構助成）を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図る。令和２年度は事業期間（平成３０年度～令和２年度までの３か年）の３年目にあたる。

今期（令和２年度）の加入状況

牛			豚		
戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
524戸	61,452頭	9,341,675円	165戸	592,766頭	98,293,250円

### 3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国庫）公益

（牛疾病検査円滑化推進対策事業）

牛海綿状脳症（ＢＳＥ）検査が必要な９６ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適

正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費に対し助成した。

- ・輸送費（１３１頭）、適正処理費（１２３頭）

#### 4 馬飼養衛生管理特別対策事業（（公社）中央畜産会）**その他**

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が高いことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

- (1) 馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 1回

日時：令和２年８月１８日（火） 場所：書面開催

- (2) 地域馬獣医療技術基礎調査

乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策等に関する調査」を実施した。

調査対象戸数８８戸、回答戸数４３戸（５２％）から回答が得られた。

- (3) 馬飼養衛生基礎技術実習

日時：令和３年３月２２日（月） 場所：ちばシティ乗馬クラブ

講師：海神動物病院 中村千香子先生

#### 5 育成馬等予防接種推進事業（（公社）中央畜産会）**その他**

3種混合ワクチン			馬インフルエンザワクチン				日本脳炎 ワクチン	2種混合 ワクチン	計
1歳馬	2歳馬	計	1歳馬	2歳馬	繁殖牝	計	2歳馬	2歳馬	
22頭	31頭	53頭	8頭	35頭	11頭	54頭	21頭	4頭	132頭

馬飼養の集団化、多様化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ競馬場入きゅう前の育成馬等について予防接種の徹底を図るため、下記のワクチン接種に対して助成し、馬防疫の推進に努めた。

#### 6 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（（公社）中央畜産会）**その他**

地域における自主防疫活動の強化を図るため検討会を開催し、競走馬以外の乗用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種の推進、軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進を図った。

馬インフルエンザワクチン	馬鼻肺炎ワクチン
645頭（乗用馬 645頭、小格馬等 - 頭）	3頭（3頭×1回接種）

#### 7 家畜防疫・衛生指導対策事業（（公社）中央畜産会）**公益**

家畜伝染病の発生予防、まん延防止等を確実かつ効率的なものとするため、国家防疫措置に併せて、地域における重要な家畜疾病を対象とした防疫演習、

慢性感染症対応、馬伝染性貧血防疫等の自衛防疫活動を推進するとともに、家畜衛生の向上と家畜・畜産物の安全性を確保する上で重要なツールである農場HACCP認証に必要な審査員の養成、力量向上、認証取得の導入促進となる推進農場の構築手順の提供等を総合的に実施した。

#### (1) 地域自衛防疫推進事業

千葉県自衛防疫の取組を促進するため千葉県畜産協会家畜衛生評議委員会を開催し、地域自衛防疫体制の確認や防疫演習等の計画の検討等を行った。

また、高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の発生時の迅速かつ的確な防疫措置が実施できるよう、防疫演習（机上演習や実地演習）を開催した。

##### ア. 地域自衛防疫取組促進

- 1) 第1回家畜衛生業務評議委員会議  
令和2年6月12日（書面決議） 12名
- 2) 第2回家畜衛生業務評議委員会議  
令和3年3月5日（書面決議） 12名

##### イ. 地域自衛防疫活動推進

- 1) 豚熱発生時防疫活動に係るサブリーダー演習  
千葉県畜産総合研究センター 34名
- 2) サブステーション設営演習・千葉県豚熱防疫演習  
千葉県農業大学校 153名

#### (2) 地域疾病対策事業

船橋競馬場競走馬防疫会（事務局：千葉県競馬組合）の要請に基づき、馬伝染性貧血に係る競争用馬の抽出サーベランス検査実施に係る獣医師技術費を助成した。 獣医師：3人/日

#### (3) 地域農場HACCP認証支援事業

農場HACCPの普及促進を図るため、農場HACCP推進農場の実態を調査するとともに、認証に向けて取組む農場に対して技術指導者を派遣し、効果的な指導・支援を行い、認証普及を図った。

- 1) 普及推進協議会等会議の開催  
①普及推進協議会：2回、 ②地域取組促進活動：3回
- 2) 地域農場HACCP認証構築指導  
①農場HACCP構築指導に係る意見交換会の開催：3回  
②農場HACCP構築指導事業  
対象農場：酪農4農場、肉牛16農場、豚21農場、採卵鶏3農場  
ブロイラー1農場 計45農場 農場HACCP指導員：18名

## 8 畜産GAP拡大推進加速化事業（県）公益

千葉県畜産課の業務委託契約に基づき、日本版畜産GAPの普及推進のため、GAP認証取得のための個別指導等コンサルタント等を行った。

- ①日本版畜産GAP普及推進：構築指導農場：肉用牛1件、採卵鶏1件、農業高校1校(乳牛、豚、採卵鶏)
- ②日本版畜産GAP認証取得コンサルタント：養豚1件(2020.12.1認証)

## 9 市町村等自衛防疫活動支援事業（協会単独）**公益**

当協会で実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導を行った。

・活動支援助成金交付先 市町村家畜防疫会 48団体

	R2実績	備考
標準活動費	960,000円	@20,000円×48市町村
事業活動費	150,800円	牛・豚予防接種の実績配分 単価：牛10円、豚0.5円
合計	1,110,800円	

## 10 特定疾病損耗防止事業（協会単独）**公益**

下記疾病に対して予防接種を推進した。

牛伝染性鼻気管炎ワクチン	2,196頭
豚丹毒生ワクチン	3,000頭
日本脳炎・パルボワクチン	258頭
異常産ワクチン（3種混合、4種混合）※	90頭

※ 県立農業高校

## 11 養鶏研修会（協会単独）**公益**

高病原性鳥インフルエンザの防疫対策に資するため、養鶏農家及び関係機関・団体・業者等を対象に研修会を計画したが、県内の高病原性鳥インフルエンザ発生により中止した。

## 12 家畜伝染性疾病防疫活動円滑化推進事業（協会単独）**その他**

口蹄疫やPEDなどの家畜伝染性疾病の発生時に、消毒用機器や防疫対応資材を速やかに運搬するための車両を千葉県に貸し出すことで県内の防疫活動を円滑に推進した。

## 13 ASF侵入防止緊急支援事業（（独）農畜産業振興機構）**公益**

ASF侵入防止対策として、養豚農家が地域侵入防止計画に基づき野生動物の侵入に対する防護柵を整備する場合に、その負担軽減を図るため、当該柵の整備に必要な費用を助成する取組みを行った。

整備件数190農場

#### 1 4 千葉県ASF侵入防止緊急支援事業（県）**公益**

独立行政法人農畜産業振興機構の実施する事業により、ASFの農場侵入を防止するための野生動物侵入防護柵を整備する養豚経営体に対して助成する取組みを行った。

整備件数 190 農場

#### 1 5 生産農場衛生対策緊急強化事業（協会単独）**公益** **【新規】**

豚熱等の国内発生などにより飼養衛生管理基準が改正・強化され、農場での消毒施設・防護柵の整備、ワクチン接種や衛生資材の他外国人従業員等への衛生教育対応など、農家の経済的負担が急増していることから、飼養衛生管理基準改定の啓発・普及を図るとともに、衛生対策強化に係る資材の購入・備蓄への支援、農場の外国人従業員等への衛生教育研修等を実施した。

（1）飼養衛生管理基準の記帳マニュアル（400部）

（2）衛生資材等の補助（13生産組合、122名）

（3）外国人研修生等の雇用実態調査

①アンケート用紙作成

②アンケート調査・実施（HACCP養豚農場、旭市等）：回答30農場

③海外技能実習生の資料配布：中国語13部（2農場）、ベトナム語54部（3農場）

（4）外国人研修生等を対象とした衛生研修会の開催

①旭市：養豚3農場、参加者38名、通訳：タガログ語1名、ベトナム語1名、

②市原市：養豚1農場、参加者10名、通訳：タガログ語1名

③研修会開催希望2養豚農場（ベトナム、中国）は疾病蔓延等により延期

### Ⅲ 畜産の活性化を進める事業

#### 1 畜産関係団体調整機能強化事業（（公社）中央畜産会）**その他**

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワーク」の活動を支援した。

#### 2 畜産フェア（協会単独）**公益**

第14回千葉県畜産フェアは、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、「毎日おいしい千葉県の畜産」プレゼントキャンペーンと題して、WEB上で千葉県産畜産物のPRと消費拡大を実施した。抽選で150名に次の県産畜産物を提供した。

チバザビーフ精肉 20 点、チバザポーク加工品 32 点、千葉県産卵 60 点  
千葉県産はちみつ 18 点、おなりアイスクリーム 20 点 計 150 点

## IV 畜産物の品質向上を図る事業

### 1 養豚改良対策事業 その他

登記登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

#### (1) 登録事業（協会単独）

優良種豚改良の基本となる登録を（一社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録 126 頭、子豚登記 218 頭、F1 血統証明 20 頭、  
肉豚証明 916 頭、移動証明 2 頭

#### (2) 肉豚共進会事業（県）

肉豚の改良成果を競い合い、もって種豚の重要性と品質の高い豚肉生産技術の向上を図るため肉豚共進会を開催した。

開催日：10 月 6 日～8 日 出品頭数：200 頭

#### (3) 優良種豚場認定事業（（一社）日本養豚協会）

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（一社）日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。 遺伝資源保存指定種豚場 3 場

#### (4) 原種豚認定事業（協会単独）

（一社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 3 農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録 54 頭・子豚登記 77 頭

### 2 千葉県産オリジナル豚肉生産体制強化事業（県） その他

平成 28 年 1 月に系統豚として認定されたランドレース種「ボウソウ L4」について県内銘柄豚肉の素豚としての活用を促進し、銘柄豚肉の生産性向上および肉質の安定化を図るため、繁殖素豚の衛生的な生産体制構築および、L4 導入農場における成績を客観的に評価し、改善に向けた検討を行なうことで、銘柄の生産性向上に向けた生産・供給体制及び L4 の普及体制の構築を図った。 調査農場 5 場 L21 腹 LW16 腹

## V 畜産経営の安定化を図る事業

### 1 肉用子牛生産者補給金制度（（独）農畜産業振興機構）公益

#### （１）肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

① 令和２年度生産者補給金交付契約締結者 １０８人

② 事務委託先契約締結数 １１件

#### 1）契約肉用子牛の個体登録 （単位：頭）

区分 品種	令和２年 １月１日～ ３月３１日	令和２年 ４月１日～ ６月３０日	令和２年 ７月１日～ ９月３０日	令和２年 １０月１日～ １２月３１日	計
黒毛和種	224	251	277	194	946
その他肉専	2	1	0	4	7
乳用種	756	578	473	419	2,226
交雑種	2,380	2,264	1,930	1,565	8,139
計	3,362	3,094	2,680	2,182	11,318

#### 2）生産者積立金の積立額 （単位：円）

品 種	契約 頭数	積立 単価	積立額	負 担 区 分		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	224	1,200	1,424,000	712,000	356,000	356,000
	722	1,600				
その他肉専	2	12,400	118,800	59,400	29,700	29,700
	5	18,800				
乳用種	756	6,400	14,834,400	7,417,200	3,708,600	3,708,600
	1,470	6,800				
交雑種	2,380	2,400	24,140,800	12,070,400	6,035,200	6,035,200
	5,759	3,200				
計	11,318	—	40,518,000	20,259,000	10,129,500	10,129,500



### 3) 生産者補給金交付状況

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位:円、頭)

品種区分	交付対象		奨励金交付額	
	人数	頭数	単価	交付額
その他肉専用種	1	1	67,000	67,000
合計	1	1	—	67,000

## 2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

(独)農畜産業振興機構) **公益**

### (1) 制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

### (2) 指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

## 3 優良肉用子牛生産推進緊急対策事業 ((独)農畜産業振興機構) **公益**【新規】

新型コロナウイルス感染症の影響による枝肉価格の低下に伴い、子牛価格が急落しており、肉用子牛生産者の生産意欲の低下による肉用牛生産基盤の弱体化が懸念される状況にある。

このような中、肉用子牛生産者の生産意欲を高め、肉用子牛の生産基盤の維持・強化を図るため、畜舎の環境改善や疾病の防止等の経営改善に取り組む肉用子牛生産者に対し、全国の家畜市場における肉用子牛の取引価格の平均価格が発動基準を下回った場合に、肉用子牛の飼養頭数を維持することを目的として、奨励金を交付した。

令和2年5月～令和3年3月

単位:人/頭/円

品種区分	交付対象		奨励金交付額	
	人数	頭数	単価	交付額
その他肉専用種	1	2	30,000	60,000
合計	1	2	—	60,000

## 4 肉用牛肥育経営安定交付金制度 ((独)農畜産業振興機構) **公益**

肉用牛経営安定交付金制度は、畜産経営の安定に関する法律に基づく制度であり、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に肉用牛の生産

者に対し、その差額の9割を交付金として交付することにより、肉用牛の生産者の経営に及ぼす影響を緩和すること目的としている。当協会では、農畜産業振興機構の委託を受け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響による枝肉価格の急激かつ大幅な下落に伴い、肥育農家の経営状況が悪化していることから、肥育経営の資金繰りを支援するため、生産者負担金の納付猶予が行われている。(契約生産者が飼養する契約肉用牛のうち、令和2年4月末から負担金の納付期限を迎える契約肉用牛について当該期間における負担金の納付を積立金から支払われる額(1/4分)が積立金から支払われるまで猶予。)

[交付金交付状況](令和2年4月期～令和3年3月期)

品種区分	交付対象		交付金の額 (円) (4/4)	交付金として 支払う額 (3/4)	積立金として 支払われる額 (1/4)
	人数 (延べ数) (人)	頭数 (頭)			
肉専用種	444	2,685	334,652,532	250,989,235	83,663,297
交雑種	576	10,004	1,124,399,139	843,299,142	281,099,997
乳用種	147	3,244	144,574,309	108,430,676	36,143,633
合 計	1,167	15,933	1,603,625,980	1,202,719,053	400,906,927

※令和2年12月期の肉専用種及び令和3年3月期の肉専用種以外の全期間・全品種において交付金を交付。

## 5 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業(肥育生産支援事業)

((公社)中央畜産会) **公益** **【新規】**

新型コロナウイルス感染症の影響による肥育農家の経営悪化に対応するため、経営改善に取り組む肥育農家に対し、販売頭数に応じて奨励金を交付する。当協会では、中央畜産会の委託を受け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

### (1) 対象となる肥育牛の主な要件

- ①肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の対象牛のほか、繁殖雌牛や搾乳牛も、3か月以上再肥育されたものが対象
- ②令和2年4月7日～令和3年3月31日に販売した牛が対象

### (2) 奨励金の交付状況

- ①事業参加者数：139戸
- ②奨励金の交付対象頭数：13,042頭  
うち、牛マルキン登録頭数：12,650頭
- ③奨励金交付金額：260,840,000円

※牛マルキン対象牛においては、令和2年4月～令和3年1月販売分、

牛マルキン以外の対象牛においては、令和２年４月～９月販売分まで交付済み。

牛マルキン対象牛の令和３年２～３月販売分、及び牛マルキン以外の対象牛の令和２年４～９月販売分（未交付分）・令和２年１０月～令和３年３月販売分については、令和３年度事業として持ち越し交付する。

## ６ 千葉県肉用牛肥育経営安定対策補完事業（協会単独）**公益** **【新規】**

肉用牛経営安定交付金制度（牛マルキン）は、畜産経営の安定に関する法律（昭和３６年法律第１８３号）に基づく法律制度であり、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に、肉用牛の生産者に対し、その差額の９割を交付金として交付することにより、肉用牛の生産者の経営に及ぼす影響を緩和することを目的としている。

しかし、当該制度の実施にあたり、生産者や書類手続き上の諸事情により生産者が制度上補填されない場合がある。この場合、本事業により牛マルキン補填金相当額を支援することで、肉用牛肥育経営の安定を図った。

[補填金交付状況]（令和２年１２月期～令和３年３月期）

品種区分	交付対象		交付金の額（円）
	人数（延べ数）（人）	頭数（頭）	
肉専用種	0	0	0
交雑種	4	38	1,067,674
乳用種	2	4	150,279
合 計	6	42	1,217,953

## ７ 千葉県肉豚経営安定対策事業（県）**公益**

農畜産業振興機構が実施する肉豚経営安定交付金制度の負担金の一部を助成し、養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産確保に努めた。

養豚事業者数１６９名 補助単価１頭当たり４０円

# Ⅵ 特別事業

## １ 種豚改良対策基金（協会単独）**その他**

指定種豚場を対象とした原種豚農場の認定による本県純粋種豚の改良の促進と品質の高い豚肉を効率よく生産するための各種事業推進を図るためこの基金を有効に活用した。

## **Ⅶ その他**

### **1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業**

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体が船橋市船橋競馬場（ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりインターネットを活用した新たな形で開催した。

「毎日おいしい千葉県の畜産」プレゼントキャンペーンと題して、WEB上で千葉県産畜産物のPRと消費拡大を図った。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

### **2 千葉県養蜂協会関連事業**

#### **(1) 養蜂振興推進事業（県委託事業）**

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

#### **(2) ポリネーション推進事業**

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

#### **(3) 販売対策事業**

千葉県畜産賞「三里塚特別競走」の副賞として蜂蜜を提供した。

#### **(4) 蜜源増殖対策事業**

蜜源植物の苗木（椿、桜等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

#### **(5) 防疫対策事業**

ダニ駆除薬等（アピスタン、アピバール）を共同購入し、会員に配布した。

#### **(6) 養蜂飼料等斡旋物資対策事業**

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

### **3 馬事畜産振興推進事業**

(1) 令和2年8月21日 令和2年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を書面決議により開催し、令和元年度事業報告及び収支決算、令和2年度計画及び収支予算について審議・決議した。

(2) 令和2年10月21日、千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、パンフレット等の配布を行う計画をしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。代わりに開催された千葉県畜産フェア Web キャンペーンにてパンフレット等の提供、配布を行った。

- (3) 令和2年10月31日、船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会と協賛して、冠レース・千葉県畜産賞「三里塚特別」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

#### 4 ナイスポークチバ推進協議会関連事業

生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大、養豚経営安定強化のための政策要請、後継者育成等の活動により、養豚経営の安定強化と産業振興を図るため、協会として生産者の活動を支援するための事務を取り扱った。

[活動と実績]

新型コロナ感染拡大に伴い、活動が制約される中での実施事業。

- (1) ポスター作成配布による組織強化と会員加入推進
- (2) 生産性向上のための関連行事への協賛
- (3) サポーター会員制度による消費者交流により、県産（国産）豚肉に関する情報提供及びPRによる消費拡大推進
- (4) 消費拡大推進のためのマスコット（着ぐるみ）作成
- (5) 県に対し豚熱（CSF）防疫ワクチン接種料金の生産者負担軽減要請
- (6) 国に対し豚熱（CSF）防疫ワクチン接種に関する特例要請
- (7) 農場衛生管理区域防疫強化のための看板作成・配布
- (8) 養豚におけるクラスター事業への積極的参加
- (9) 養豚振興のための関東ブロックによる情報交換会活動
- (10) 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の業務委託に伴う農家指導
- (11) 登録事業委託団体として豚の改良推進
- (12) （一社）日本養豚協会（JPPA）との連携による活動
  - ① 自民党衆参国會議員で創る養豚農業振興議員連盟への要請活動
  - ② 国産豚肉消費拡大推進のためSNS（インスタグラム）による参加
  - ③ 豚熱（CSF）対策のための情報の共有と対策に関する要請活動
  - ④ アフリカ豚熱（ASF）に関する情報の共有と水際対策のための要請

#### 5 千葉県自家検定推進協議会関連事業

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

#### 6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に設立、会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援等、事務を取り扱った。

## 7 NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業

畜産に係わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立した。現在会員は、団体・個人会員及び賛助会員を含めて86名となりました。

当畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について、その一部をNPO法人に委託、または協力を得て実施した。

### (1) 畜産経営支援事業

- ①畜産情報収集・提供事業 ②地域農場HACCP認証支援事業
- ③馬事畜産振興推進事業 ④野生獣衛生体制整備推進確立対策事業
- ⑤千葉県エコフィードコーディネーター設置事業
- ⑥死亡牛等の受入及び保管等補助業務（千葉県公募事業）
- ⑦生産農場衛生対策緊急強化事業（千葉県畜産協会 委託事業）
- ⑧畜産経営における排水実態調査（中央畜産会 委託事業） 3 養豚場の浄化槽調査
- ⑨JGAP認証構築指導支援
- ⑩県内HPAI発生に伴う現地防疫活動従事者の派遣

### (2) 人材情報システム運営及び団体事務受託

- ・県立農業大学校畜産関係非常勤講師派遣
- ・団体が実施する、台風被害補助事業に係る事務処理業務のため会員を派遣

### (3) 消費者交流・動物情操教育事業

- ・本年度は台風被害の影響を受け、毎年船橋競馬場で開催している千葉県畜産協会主催の千葉県畜産フェアが中止になりました。千葉県馬事畜産振興協議会の冠レースなどの事業活動に参加しました。

## 8 千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会関連事業

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能物質により汚染された稲わらが流通し牛肉などに風評被害が出ている問題で、千葉県内の肉用牛生産農家が損害賠償請求を行うため、平成23年度に設立された「千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会」の事務局を令和2年度も引き続き行い、県の指導と下記支援団体の協力を得て賠償請求を行った。

### <支援団体>

千葉県家畜商協同組合、千葉県肉牛生産農業協同組合、  
千葉県配合飼料価格安定基金協会 [千葉県全日本畜産経営者協会]、  
一般社団法人千葉県農業協会（肉用牛部会）、株式会社千葉県食肉公社、  
横芝光町（東陽食肉センター）、県南畜産処理事業協同組合（南総食肉センター）

## (1) 請求状況

請求次	請求者数	請求金額 (千円)	請求日
3 3	6 2	1 3, 5 2 3	令和 元年 1 0 月 1 日
3 4	5 4	1 1, 0 1 3	令和 元年 1 2 月 2 6 日
3 5	6 0	1 1, 9 1 2	令和 2 年 4 月 1 日
3 6	6 6	2 0, 4 2 8	令和 2 年 9 月 2 5 日
3 7※	1	5 6 0	令和 2 年 1 2 月 2 4 日
計	—	5 7, 4 3 6	※最終請求次

## (2) 支払状況

請求次	支払者数	支払金額 (千円)	支払完了日
1	9 9	4 2 0, 1 5 2	平成 2 3 年 1 2 月 3 0 日
2	1 0 9	5 3 4, 5 5 3	平成 2 4 年 3 月 3 0 日
3	1 2 2	1, 1 3 4, 9 8 4	平成 2 5 年 2 月 2 1 日
4	1 3 8	6 7 3, 6 5 1	平成 2 5 年 2 月 2 1 日
5	9 4	3 2 4, 4 3 3	平成 2 5 年 4 月 2 日
6	9 4	8 4, 8 1 1	平成 2 5 年 8 月 2 3 日
7	1 1 4	1 1 0, 0 4 5	平成 2 5 年 1 1 月 1 1 日
8	9 9	5 5, 0 8 8	平成 2 5 年 1 1 月 1 1 日
9	9 3	2 7, 8 4 7	平成 2 5 年 1 2 月 1 2 日
1 0	6 6	8, 5 4 2	平成 2 6 年 1 月 8 日
1 1	9 3	1 4, 0 8 8	平成 2 6 年 8 月 8 日
1 2	5 7	6, 0 9 1	平成 2 6 年 7 月 2 2 日
1 3	6 6	7, 8 5 0	平成 2 6 年 1 0 月 2 8 日
1 4	7 6	7, 5 3 3	平成 2 7 年 1 月 1 9 日
1 5	8 0	1 0, 3 4 7	平成 2 7 年 5 月 2 7 日
1 6	6 2	6, 7 8 0	平成 2 7 年 8 月 1 1 日
1 7	6 8	7, 4 4 7	平成 2 8 年 4 月 1 1 日
1 8	7 5	1 1, 7 5 7	平成 2 8 年 8 月 5 日
1 9	7 2	1 4, 3 2 7	平成 2 8 年 1 2 月 1 3 日
2 0	7 2	1 2, 4 3 7	平成 2 8 年 1 1 月 1 8 日
2 1	6 0	1 1, 7 9 0	平成 2 8 年 1 2 月 1 4 日
2 2	6 6	1 4, 0 4 3	平成 2 9 年 3 月 2 8 日
2 3	6 7	1 4, 4 0 8	平成 2 9 年 6 月 1 6 日
2 4	6 2	1 4, 1 9 7	平成 2 9 年 9 月 1 5 日
2 5	6 4	1 3, 0 4 4	平成 3 0 年 3 月 2 3 日
検体 1-1	7 8	1 5, 5 9 1	平成 2 8 年 7 月 2 2 日
検体 1-2	1 9	1 3, 0 1 7	平成 2 8 年 8 月 1 5 日

検体 2-1	3 5	6, 2 8 3	平成 2 8 年 8 月 1 5 日
検体 2-2	4 3	8, 2 1 9	平成 2 8 年 1 2 月 1 2 日
2 6	6 7	1 6, 6 7 7	平成 3 0 年 8 月 2 7 日
2 7	7 2	1 5, 1 9 5	平成 3 0 年 1 0 月 1 2 日
2 8	6 9	1 1, 4 2 9	平成 3 1 年 4 月 2 4 日
2 9	6 8	1 4, 5 4 6	平成 3 1 年 4 月 2 0 日
3 0	6 5	1 2, 6 5 5	令和 元 年 5 月 1 7 日
3 1	6 8	1 7, 1 6 4	令和 2 年 2 月 7 日
3 2	6 1	1 1, 3 0 8	令和 2 年 2 月 5 日
小計	—	3, 6 8 2, 3 2 9	支払済額
3 3	6 2	1 3, 5 2 6	
3 4	5 4	1 1, 0 1 4	
3 5	6 0	1 1, 9 1 2	
3 6	6 6	2 0, 4 2 2	
3 7	1	5 6 0	
総計	—	3, 7 3 9, 7 6 3	空白は未確定／総計は予定額

※支払完了日は各請求次における最終支払者の日付である。

### (3) 請求対象期間

請求次	期 間
3 3	平成 3 1 年 4 月 1 日～令和 元 年 6 月 3 0 日
3 4	令和 元 年 7 月 1 日～令和 元 年 9 月 3 0 日
3 5	令和 元 年 1 0 月 1 日～令和 元 年 1 2 月 3 1 日
3 6	令和 2 年 1 月 1 日～令和 2 年 3 月 3 1 日
3 7	令和 2 年 1 月 1 日～令和 2 年 3 月 3 1 日

※第 2 次以降の請求については、未請求・請求漏れを含む場合がある。

## 9 チバザビーフ協議会関連事業

### (1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

#### 【チバザビーフ知名度向上対策事業】

#### ① 推進活動

総会（令和 2 年 7 月、書面開催）及び理事会・専門部会（6 月、8 月、計 2 回）を開催した。

#### ② 広報活動

- ・千葉県産牛肉応援キャンペーン（7～9 月、県内各所飲食店等）開催
- ・オータムフェア（9 月、千葉県立北総花の丘公園）協賛・協力



- ・ゆめの収穫祭（１０月、成田ゆめ牧場）協賛・出店
- ・毎日おいしい千葉県の畜産プレゼントキャンペーン（１０月、WEB）協賛
- ・ユニオンアウトドアフェスティバル（１１月、ユニオンベース（印西市））協力
- ・いい歯のイベント２０２０・千葉県口腔保健大会（１１月、千葉市民会館）協賛
- ・８０２９プレゼントキャンペーン（１１～１月、千葉県内のイオンリテール・マックスバリュ）協賛
- ・その他 各銘柄でのチバザビーフPR活動支援  
メディア等を活用したPR（千葉テレビ、PR大使等）  
ホームページの維持・更新

#### 【チバザビーフ肥育技術向上対策事業】

##### 枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年１回（令和２年１０月）

〈出品頭数〉１００頭（黒毛和種 ５２頭、交雑種４８頭）

枝肉研究会 年２回（令和２年６月、令和３年２月）

〈出品頭数〉６月：６０頭（黒毛和種 ３１頭、交雑種 ２９頭）

２月：６０頭（黒毛和種 ３２頭、交雑種 ２８頭）

## 10 チバザポーク販売推進協議会関連事業

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

##### 主なPR活動

- ・チバ肉フェス GWスペシャルキャンペーン【WEB】
- ・元気半島、ちば！（ちばの豚肉特集）【WEB】
- ・毎日おいしい千葉県の畜産プレゼントキャンペーン【WEB】
- ・いい歯のイベント２０２０（千葉市民会館）
- ・８０２９プレゼントキャンペーン（県内イオンリテール・マックスバリュ）
- ・絵手紙コンクール（酪農のさと）